

第34回

うつのみやこども賞だより

平成29年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『幽霊屋敷のアイツ』

川口雅幸／著（アルファポリス）



～読んだ本の感想より～

- どんどん、とうまの秘密が明らかになっていく所がおもしろかった。
- エピローグに二人の名前が出てきてすごいと思った。宗佑の言ったことに笑ってしまった。
- チャロットとの出会いが、あまりにかん单すぎて最初おどろいたけど、その方がムードがでて逆に良い感じになっていておもしろかった。
- 燈馬やアサミが異世界にってしまうのはとてもびっくりでややこしかったけど、最後には二人とも元の世界にもどれてよかったです。
- 未来と昔がまじったような物語で難しいけれどおもしろい。
- 同じ人間の世界で漢字がびみょうに違うなど世界観が新鮮でした。
- とうまの勇気や、リナを元の世界にもどそうとする物語がおもしろかった。

『青いスタートライン』 高田由紀子／著（ポプラ社）

- 遠泳の練習をしているときのそうたの成長している様子がわかった。つらくても頑張るそうたはすごいと思った。
- 主人公が本気で何かをやろうとしていることにすごいと感じた。私も何かに一生けん命とりくみたい。
- 颯太くんは、最初は25mしか泳げなかったのに、あきらめずに1kmも泳げてすごいなあとおもいました。
- 25mしか泳げないのに1km泳ぐ遠泳大会に参加したいと言出したそうたの勇気と夏生くんのじじょうがたくさん本の中に詰まって、いい本でした。
- 1kmの水泳をやるということがすごいと思いました。

『おれたちのトウモロコシ』

矢嶋加代子／著（文研出版）

- トウモロコシづくりから、考えたり悩んだり3人の友情や、まわりの人たちとの関わりが深まっていくところがよかった。
- 3人は、畑のために、トウモロコシのために、たししいことをしたと思った。
- 旅行のお金をつくるためにトウモロコシを作るのは面白いと思いました。
- とっても読んでいてあかるい気分になるくらいあかるい話だった。

『見上げた空は青かった』

小手鞠るい／著（講談社）

- 2人の思っていることが最後につながる。戦争独特の悲しみと、だからこそその喜びが表現されていて良かった。
- とっても戦争は怖いと感じさせられる本でした。
- つらくても、希望はすてないという強さに感動しました。
- ノエミとロザンナの自由にしたいのにできないつらさ、家族と会えない悲しさに読んでいる方も、悲しくなったけれど、戦争は二度とくりかえしていけないことなんだなと思った。
- この中の登場人物はフィクションだけれども、このような経験をした人もいると思う。自分の表現力ではたりないくらい深い本だった。

平成29年11月5日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library